

研究主題：聴き合い・学び合う力を高める学習活動の創造 —よく聴き・しっかり考え・ねばり強く取り組む児童の育成— (御所市立大正小学校)

1. 研究の概要

【研究の趣旨】

学校の様々な活動場面において、安心して聴き合える環境のもと、相手を意識して聴き合うための『場の工夫』を行う。

(1) 朝の帯時間を活用した聴き合う時間「TAIWA」

- ・全学年が、設定されたテーマについてペアで聴き合う活動「TAIWA」を行った。
- ・「好きな遊び」「もし魔法が使えたら」など、児童が「話したい」「聴きたい」と思い、楽しんで活動できるようなテーマの候補をあらかじめ教師間で検討した。

(2) 授業研究

国語科、算数科を中心とした対話を取り入れた授業研究の実施

- ・研究授業後の研究協議では、学習中の児童の様子を中心に協議をした。その際、児童相互の対話がどれだけ成立していたかについて、確認することを大切にした。

「書く」活動の充実

- ・まず個人で考えを書き、「自分の考えをもつ」ことを大切にしました。

ペア・グループ学習の定着

- ・自分の考えをもち、相手と聴き合う力を養うため、各教科領域において、ペアやグループ学習を積極的に取り入れた。



(3) 日常の取組の交流「TEM (Taisho Education Meeting)」

- ・参加教員が日常の実践や悩み、児童の実態などをざっくばらんに語り合う場を設けた。各教員が経験してきたことを共有し合うことで、例えば、低学年における取組の積み重ねがその後の高学年の児童の姿につながることを知り、低学年担当は高学年の児童の姿を意識した上で、目の前の児童にできることを考えるきっかけとなった。

2. 研究のまとめ

本年度、目指す子ども像（つきたい力・資質）として、

- ◇ 相手の意見や考えと自分の意見や考えを比較して聴くことができる。
- ◇ お互いの意見や考えを『受け止める』ことができる。
- ◇ 自分の思いや願いを、『自分のことば』で伝えることができる。
- ◇ 「相手意識」「目的意識」をもち、場に応じた話し方ができる。

の4つを設定して取組を進めた。これらの力を客観的に把握するため、アンケートを実施した。

その結果、「お互いの意見や考えを『受け止める』ことができる」に関わる項目について、90%弱の児童が肯定的に答えた。一方で、「相手意識」「目的意識」に関わる項目では、およそ25%の児童が否定的に答える結果となった。相手の話に対して考えをもち、自分の考えを伝えようとする児童がいる一方、分かりやすく伝えることが難しいと感じる児童がいることが分かった。低学年からの積み重ねを大切に、取組を継続、深化させることで、全校的な資質向上に努めたい。

少しずつではあるが対話型授業が成立する要素が見えてきた部分もあった。まずは、「自分が意見を言える」と思える安心感があることだ。次は、対話の「テーマ」「目的」が明確であることだ。これらの研究は、まだまだ道半ばである。長期的視野に立って今後も取組を継続し、それが本校の新たな伝統となり、現在低学年の児童が高学年となったときに確かな力となっていることを願っている。

3. 研究へのコメント

聴き合い・学び合う力を高める学習活動の創造として、児童同士が聴き合う時間「TAIWA」や教員間での交流の場である「TEM」、更には「対話型授業」の実施における様々な指導内容等が示されており、優れた具体的実践がまとめられた研究報告である。

アンケート結果の分析における「相手意識」「目的意識」の改善に対する取組については、自尊感情の低さという分析に基づき、低学年からの積み重ねや今回の取組を継続、深化させることがどのように児童の自信の向上につながるのかをよく検討し、全校的な資質向上につなげていくことを期待する。